

## Sくんの成長

平成29年9月26日、東京の病院でS君は生まれました。出産もスムーズで、入院中も母乳をたくさん飲んでくれるとっても元気な赤ちゃんでした。

言葉や発達が遅れぎみなのでは、と感じるようになったのは、S君が一才半健診を迎える頃でした。幼児番組や公園遊びを嫌がったり、スパーで気に入らない事があるとひっくり返ってジタバタしたり……。対処方法がわからず私は困惑し、S君もイライラしてますます不機嫌になることも多かったです。

二才から済生会に通うようになり、広汎性発達障害という診断を受けました。シヨックでしたが、やっぱりなという気持ちもありました。けれど長男も言葉が遅く、三才頃から言葉がたくさん出るようになったので、三才になればきつと良くなると思っていました。

三才になって近所の幼稚園の満三才児クラスに入りました。その頃になってもまだ発語はほとんどなく、目もなかなか合わせてくれない状態でした。そして、たまたま以前電話で相談したばっその先生が園に来てくれた時、この子はいこいの家の方がいいかもねと勧めてくれました。いこいの家は親子教室で何回かお世話になっていたので知っていました。

そうして年少さんからはいこいの家に通園するようになりました。最初は片道徒歩一時間以上かけて通園していて、S君は道の途中で座りこんだり、手をつなぐのを拒否したり、なかなか大変でした。年長さんに

なった今では、自転車の後ろに乗ってくれるようになり、ヘルメットもかぶれるようになりました。いこいの家に着くと自分で靴をぬぎ、そのまま靴をもって子ども玄関にスタスタと歩いてくれます。廊下を歩いていると各クラスの先生が挨拶をしてくれて、私の気持ちまで晴れ晴れとします。

いこいの家に入園して3年目となり、S君のコミュニケーションの幅が広がりました。家では相変わらず偏食ですが、いこいの家の給食は食べられる事が多いようです。オウム返しで言える言葉も増えてきました。最近は帰りに「せんせ」「あん」と「バイバイ」などが言えるようになってきました。家でも「ママ」「れいぞうこ」「あけて」など言ってくれます。オウム返しで言葉をくり返す事で、その状況にあった言葉を少しずつ発語できるようになりました。

来年からは小学生。いこいの家を卒園するのは淋しいけれど、これまでたくさん励ましと優しさをもらったことに感謝しています。先生たち、今までどうもありがとうございます。残りの在園期間もどうぞ一緒にS君の成長を見守って下さい。

Sくん（五歳）のお母さん